



平成29年8月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年4月14日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社
 コード番号 3536 URL <http://www.axas-hd.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 久岡 卓司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 細見 克行
 四半期報告書提出予定日 平成29年4月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 078-335-8844

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第2四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第2四半期	7,148		173		115		200	
28年8月期第2四半期								

(注) 包括利益 29年8月期第2四半期 212百万円 (%) 28年8月期第2四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第2四半期	6.83	
28年8月期第2四半期		

当社は、平成28年3月1日設立のため、前年同四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。
 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年8月期第2四半期	10,843	1,267	11.7	42.68
28年8月期	10,389	1,016	9.8	35.10

(参考) 自己資本 29年8月期第2四半期 1,267百万円 28年8月期 1,016百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期				2.00	2.00
29年8月期					
29年8月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年8月期期末配当金の内訳 普通配当1円00銭 記念配当1円00銭

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,671	3.7	238	52.4	136	130.6	194		6.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年8月期2Q	32,258,453 株	28年8月期	32,258,453 株
期末自己株式数	29年8月期2Q	2,555,100 株	28年8月期	3,298,000 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年8月期2Q	29,331,903 株	28年8月期2Q	株

当社は、平成28年3月1日設立のため、前年同四半期の期中平均株式数(四半期累計)は記載しておりません。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社は、平成28年3月1日にアクサス株式会社とACリアルエステイト株式会社の共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されたため、平成28年8月期第2四半期(平成27年9月1日から平成28年2月29日まで)の実績はありません。
- 本資料に記載している業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、平成28年3月1日にアクサ株式会社（以下「アクサ」といいます。）とACリアルエステイト株式会社（当時株式会社雑貨屋ブルドッグ、以下「ACリアルエステイト」といいます。）が、共同株式移転の方法により両社を完全子会社とする株式移転完全親会社として設立されたため、平成28年8月期第2四半期連結累計期間（平成27年9月1日から平成28年2月29日まで）の実績値がないため、前年同期との対比は行っていません。

当第2四半期連結累計期間（平成28年9月1日から平成29年2月28日まで）のわが国の経済は、中国をはじめとするアジア新興国の所得拡大等でこれまで2桁の伸びを維持してきた訪日外国人客数の増勢に陰りが見え始め、中国の税制変更や訪日外国人の「モノ消費からコト消費へ」といった消費行動の急速な変化等により1人当たりの消費額も大幅に減少し、インバウンド需要が頭打ち傾向となるなど景気を下押しする影響が見られ、欧州の政治情勢や近隣諸国の政情不安など海外情勢の先行き不透明感が強まる一方、社会保険料等の増加に伴う可処分所得の伸び悩みにより消費者の節約志向が高まり、個人消費は力強さを欠いたままの厳しい経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の「生活文化の質的な向上」を美・健康・ゆとりの側面から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値のさらなる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的には、平成28年9月に国内外、ジャンルを問わず「楽しい」をテーマにセレクトした商品を自由気ままに選んでいただけるアレックスコンフォートNU茶屋町プラス（大阪市北区）と、本格的なキャンピングギア・ウェア・バック等を多数取り揃え、フィールドライフをワンランクアップさせるG o G o CAMP（ゴーゴーキャンプ）をデコール川内店（徳島県徳島市）内に併設・運営開始いたしました。また、平成29年2月において定期建物賃貸借契約期間満了に伴いアレックスコンフォートラツ津（三重県津市）を閉店いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間末におけるグループ店舗数は、34店舗となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、販売費及び一般管理費において一時的な追加監査報酬として100万円を支払手数料に計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、売上高は7,148百万円となり、営業利益は173百万円、経常利益は115百万円となりました。固定資産売却益95百万円の特別利益及び法人税等を加えまして、親会社株主に帰属する四半期純利益は200百万円となりました。

セグメント別業績は次のとおりであります。

①小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケア事業部では、価格訴求型広告やテーマに沿った季節の商品、話題の新商品やこだわりの商品等の価値や使い方を訴求した商品提案型広告による集客効果で客数が既存店ベースで前期実績より増加・改善いたしました。

ライフスタイル事業部では、食品・ワイン販売の強化や「より身近に、よりカジュアルに」お客様のライフスタイルに寄り添うことをテーマに売場レイアウトを変更いたしました。また、文具館各店ではホームキーパー事業部の商材及び特価商材を導入したことなどにより客単価が増加し、事業部既存店ベースで売上高、粗利益高が前期実績を上回りました。

アスレ事業部では、気温の低下と共に冬物衣料等の売上が好調に推移し、アレックススポーツ沖浜店で行ったアクサクラブカードの会員を対象にした会員セール、アレックススポーツブルメール舞多開店の特別催事及びアウトレックス2店舗でのテントセールが好調で売上高、粗利益高及び客数が前期実績を上回りました。

アルコ事業部では、主要部門である酒類部門が、近年の健康志向・健康意識の高まりや若者の飲酒離れの影響等により前期より売上高が減少しているものの、ワインやウイスキーといった高粗利部門の売上高が伸長したことなどにより粗利益率は改善いたしました。食品部門は、女性客をターゲットにした商材やテーマ性を強めた価値提案型の商材が好調に推移したことで売上高、粗利益高及び粗利益率が前期実績を上回りました。また、11月に世界中のお酒や食品を一堂に集め、試飲試食していただくイベント「AWAフェス」も好調であり粗利益高伸長に寄与いたしました。

ホームキーパー事業部は、広告掲載商品の増加を推進することで、販促における効果向上を図り、DIY部門の売上高が前年を上回り、また、スポーツバイク部門は入門用ロードバイクやクロスバイク、フォールディングバイクの販売が堅調で売上高、粗利益高ともに前期実績を上回りました。しかしながら、9月～10月で高気温が長引いた上に雨天も多く主力である園芸、レジャー用品への悪影響が大きく、その他リフォーム部門が低調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は5,180百万円、セグメント利益は282百万円となりました。

②卸売事業

卸売事業につきましては、引続きシャンパンと呼ばれるスパークリングワインや一部の高額ブランドが好調に推移し、売上高、粗利益高ともに前期実績を上回りました。また、販売スタッフを増員したことによる効果として、新規顧客のアプローチ強化や、既存顧客への細かな提案を実施し、他にもオリジナル商品を中心に様々な展示会への出展による効果も少しずつ現れております。

これらの結果、売上高は1,921百万円、セグメント利益は124百万円となりました。

③その他

当セグメントには不動産賃貸事業等の売上高が含まれております。当第2四半期連結累計期間の売上高は175百万円、セグメント利益は60百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は10,843百万円（前期末比4.4%増）となり、前連結会計年度に比べ454百万円増加しました。これは主に、現金及び預金130百万円、たな卸資産176百万円、建物及び構築物（純額）99百万円、土地287百万円等の増加に対し、売掛金63百万円、未収還付法人税等26百万円、その他流動資産127百万円等の減少によるものであります。

負債合計は9,575百万円（前期末比2.2%増）となり、前事業年度末に比べ203百万円増加しました。これは主に、短期借入金850百万円、長期借入金336百万円等の増加に対し、一年内返済予定の長期借入金950百万円、未払金52百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は1,267百万円（前期末比24.7%増）となり、前事業年度末に比べ251百万円増加しました。これは主に、子会社の保有する親会社株式（自己株式）の処分による資本剰余金59百万円の増加及び自己株式37百万円の減少並びに親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金200百万円の増加に対し、配当金の支払による資本剰余金64百万円の減少等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は11.7%（前期末比1.9ポイント増）となりました。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物の期末残高（以下「資金」といいます。）は、1,010百万円（前期末比26.9%増）となり、214百万円増加しました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は130百万円となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益208百万円、減価償却費110百万円、支払利息45百万円、売上債権の増減額63百万円、その他流動資産の増減額33百万円等による増加に対し、有形固定資産売却損益95百万円、たな卸資産の増減額176百万円、その他の流動負債の増減額57百万円、利息の支払額43百万円等により減少したことであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は168百万円となりました。主な要因は、定期預金の払戻による収入139百万円、有形固定資産の売却による収入426百万円、投資有価証券の売却による収入84百万円、敷金及び保証金の回収による収入45百万円等による増加に対し、定期預金の預入による支出55百万円、有形固定資産の取得による支出798百万円等により減少したことであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は253百万円となりました。主な要因は、短期借入金の純増減額850百万円、長期借入れによる収入500百万円、子会社の所有する親会社株式の売却による収入96百万円による増加に対し、長期借入金の返済による支出1,113百万円、配当金の支払額57百万円等により減少したことであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月期の通期業績予想（平成28年9月1日～平成29年8月31日）につきましては、当四半期決算短信提出日現在におきまして、平成28年10月17日付「平成28年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表後、平成28年10月28日付「（訂正・数値データ訂正）「平成28年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について」にて訂正を公表した予想から変更はありません。

また、平成29年8月期第2四半期（累計）連結業績予想（平成28年9月1日～平成29年2月28日）と、当第2四半期連結累計期間の実績値との差異につきましては、本日付「第2四半期業績予想との差異に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断については、当社及び当社の連結子会社であるアクサ並びにACリアルエステイトの前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、同社の前事業年度の決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを使用しております。なお、当社の連結子会社であるACサポートの当第2四半期累計期間における繰延税金資産及び繰延税金負債の発生はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	997,909	1,128,199
売掛金	452,784	389,701
たな卸資産	3,405,237	3,581,619
預け金	142,048	141,848
繰延税金資産	111,068	111,068
未収還付法人税等	26,859	—
その他	265,180	138,124
貸倒引当金	△7,486	△3,634
流動資産合計	5,393,602	5,486,928
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,437,010	1,536,502
機械装置及び運搬具(純額)	1,401	1,256
什器備品(純額)	161,224	154,958
リース資産	4,175	2,487
土地	2,523,850	2,811,069
建設仮勘定	10,321	7,784
有形固定資産合計	4,137,983	4,514,057
無形固定資産		
借地権	30,296	30,296
ソフトウェア	100,034	80,492
リース資産	3,573	2,062
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	141,726	120,673
投資その他の資産		
投資有価証券	96,069	113,616
敷金及び保証金	588,951	578,573
破産更生債権等	8,591	8,495
その他	34,354	32,756
貸倒引当金	△12,152	△11,493
投資その他の資産合計	715,813	721,948
固定資産合計	4,995,523	5,356,680
資産合計	10,389,126	10,843,608

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	691,280	693,084
短期借入金	4,800,000	5,650,000
1年内返済予定の長期借入金	1,241,588	291,268
リース債務	45,631	41,026
未払金	254,168	201,743
未払法人税等	15,196	10,542
資産除去債務	6,500	3,933
賞与引当金	26,300	31,164
ポイント引当金	22,009	22,005
その他	72,021	73,515
流動負債合計	7,174,696	7,018,283
固定負債		
長期借入金	1,685,771	2,022,717
リース債務	28,861	10,755
受入保証金	255,186	279,459
資産除去債務	106,859	106,023
役員退職慰労引当金	7,425	14,550
金利スワップ負債	—	12,162
その他	113,812	111,944
固定負債合計	2,197,916	2,557,612
負債合計	9,372,612	9,575,895
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	—	6,451
その他資本剰余金	3,556,791	1,731,915
資本剰余金合計	3,556,791	1,738,366
利益剰余金		
繰越利益剰余金	△2,451,789	△431,427
利益剰余金合計	△2,451,789	△431,427
自己株式	△164,900	△127,755
株主資本合計	990,102	1,229,184
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,410	38,528
その他の包括利益累計額合計	26,410	38,528
純資産合計	1,016,513	1,267,712
負債純資産合計	10,389,126	10,843,608

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
売上高	7,148,189
売上原価	5,288,388
売上総利益	1,859,800
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	570,271
その他	1,116,419
販売費及び一般管理費合計	1,686,690
営業利益	173,110
営業外収益	
受取利息	444
受取配当金	710
その他	8,940
営業外収益合計	10,095
営業外費用	
支払利息	45,325
為替差損	7,024
金利スワップ評価損	12,162
その他	3,427
営業外費用合計	67,940
経常利益	115,265
特別利益	
固定資産売却益	95,188
特別利益合計	95,188
特別損失	
閉店損失	1,298
その他	248
特別損失合計	1,546
税金等調整前四半期純利益	208,907
法人税、住民税及び事業税	10,654
法人税等調整額	△2,172
法人税等合計	8,481
四半期純利益	200,425
親会社株主に帰属する四半期純利益	200,425

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
四半期純利益	200,425
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	12,117
その他の包括利益合計	12,117
四半期包括利益	212,543
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	212,543

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成28年9月1日
至 平成29年2月28日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	208,907
減価償却費	110,907
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4,511
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4,864
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	7,125
受取利息及び受取配当金	△1,155
支払利息	45,325
為替差損益 (△は益)	246
金利スワップ評価損益 (△は益)	12,162
有形固定資産売却損益 (△は益)	△95,188
売上債権の増減額 (△は増加)	63,178
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△176,381
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,709
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,002
未収消費税等の増減額 (△は増加)	9,376
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	33,276
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△57,026
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△5,960
閉店損失	1,298
その他の特別損益 (△は益)	248
その他	3,704
小計	161,103
利息及び配当金の受取額	621
利息の支払額	△43,077
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	11,550
営業活動によるキャッシュ・フロー	130,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△55,313
定期預金の払戻による収入	139,060
有形固定資産の取得による支出	△798,797
有形固定資産の売却による収入	426,307
投資有価証券の売却による収入	84,686
預り保証金の返還による支出	△450
預り保証金の受入による収入	24,722
敷金及び保証金の差入による支出	△34,785
敷金及び保証金の回収による収入	45,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168,977
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	850,000
リース債務の返済による支出	△22,710
長期借入れによる収入	500,000
長期借入金の返済による支出	△1,113,374
子会社の所有する親会社株式の売却による収入	96,577
配当金の支払額	△57,430
財務活動によるキャッシュ・フロー	253,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	△246
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	214,036
現金及び現金同等物の期首残高	796,678
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,010,715

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当社連結子会社であるアクサにおける親会社株式の売却について、平成28年11月29日開催の取締役会において決議のうえ承認いたしました。これに伴い、同日開催のアクサの取締役会において親会社株式の売却が決定されました。アクサは、これらの取締役会決議に基づき、平成28年12月27日付で保有する親会社株式742,900株の売却を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が59百万円増加し、自己株式が37百万円減少しております。

なお、株主資本の合計金額に影響が無い株主資本間の振り替えとして、当社は、平成28年10月12日開催の取締役会において、前事業年度末における個別貸借対照表上の利益剰余金欠損額を補填解消し、機動的かつ柔軟な資本政策を実現することを目的とし、その他資本剰余金をその他利益剰余金に振り替えることを決定いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が1,818百万円減少し、利益剰余金が1,818百万円増加しております。

上記事項にその他の変動も含め、当第2四半期連結累計期間末において資本剰余金は1,738百万円、自己株式は127百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	小売事業	卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,180,564	1,791,651	6,972,215	175,182	7,147,397	791	7,148,189
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	130,143	130,147	214	130,361	△130,361	—
計	5,180,568	1,921,794	7,102,362	175,396	7,277,759	△129,570	7,148,189
セグメント利益	282,421	124,198	406,620	60,852	467,472	△294,362	173,110

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△294,362千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。